

1 研究の概要

(1) 研究主題

高等学校における生徒が情報モラルへの関心を高め、理解を深めるための授業づくり
— 言語活動を取り入れた授業実践を通して —

(2) 研究主題設定の趣旨

< 県内高校生の現状 >

多くの高校生がスマートフォンや携帯電話を所持し、その通信サービスを利用しています。また、本県では全ての県立高校に学習用端末を導入し、それを活用した授業が行われています。ICT機器が生活の中に浸透し、それらの機器を扱う生徒のスキルは高いものがあります。

近年のICT機器の急速な普及に伴い、生徒は高い利便性を得る一方、学校現場でもICT機器に端を発する生徒指導上の問題が毎年発生しています。そういった問題を未然に防ぐことを目的に、教育活動全般で情報モラル教育が行われ、情報モラルに関する生徒の意識は高まりつつあります。しかし、簡単な操作で情報の伝達や転載ができてしまうため、生徒は、自分の行動が周囲に与える影響を深く考えることなく安易な情報のやり取りを行っているのが現状です。情報社会において安全に情報を活用するための知識と技能を身に付けることが重要であると考えます。

< 教科における情報モラル教育の位置付け >

「高等学校学習指導要領解説商業編」における「情報処理」の目標は、「ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技能を身に付けさせ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる」⁽¹⁾と示されています。また、第2の2(1)情報の活用と情報モラルには、「情報が社会に与える影響の大きさ、情報に対する責任の重さ及び情報を取り扱う際に留意することについて、討論などを通して理解させる。また、個人情報や知的財産の保護の重要性について、ビジネスの諸活動における個人情報の漏洩や著作権の侵害などの具体的な事例の考察を通して理解させる。さらに個人情報や知的財産の適切な取扱いについて、法規と関連付けて理解させる」⁽²⁾と示されています。

教科指導に当たり、情報の専門的な知識と技能を身に付けさせることに加え、個人情報や知的財産の保護、情報の管理や情報発信に対する責任などの情報モラルを身に付けさせることが大切であると考えます。

上記のことを踏まえ、本研究では、生徒に情報モラルを身に付けさせることを目的に、身近な事象を扱い生徒の興味・関心を高め、言語活動を通して、情報モラルを多面的・多角的に考察させ、情報モラルへの関心を高め、理解を深めさせる方法を探りたいと考え、本研究主題を設定しました。

(3) 研究の目標

生徒の情報モラルへの関心を高め、理解を深めるために、思考力を育む言語活動を取り入れた指導法を探る。

(4) 研究の方法と内容

1 情報モラル教育の充実を図る指導法の研究

先行研究や実践事例を基に、情報モラル教育の充実を図る指導法の研究を行い、高等学校商業科で行われている学習内容との関連性をまとめました。

2 授業実践を通じた、関心を高める指導法の検証とICT教材の研究

情報モラルへの関心を高めるための指導法とICTを活用した教材を提案しています。

3 思考力を育む言語活動を取り入れた授業実践

言語活動を取り入れた、生徒の思考力を育む授業づくりを提案しています。

《引用文献》

- (1)(2) 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説商業編』 平成22年5月 p.72、p.73